



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部



発行人：阿波谷,大原,板東,川本,澤田  
事務局 〒761-2103  
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
綾川町国民健康保険陶病院気付  
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛  
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
E-mail oharamasaki@gmail.com

## ★1 「徳島県南部でのプライマリ・ケアの実践」

大会長・美波町国民健康保険美波病院（徳島） 本田 壮一

第 22 回 日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会（22 回 PC 四国）<sup>1)</sup>では、下記の準備委員の諸先生にお世話になった（敬称略）。

副大会長；藤原真治（美馬市国民健康保険木屋平診療所）・河南真吾（JA 徳島厚生連 吉野川医療センター）  
事務局長；大倉佳宏（徳島大学病院）

顧問：板東浩（徳島大学/阪本病院、徳島県支部長）、谷憲治（徳島大学、第 10 回四国支部大会長：2010 年）、  
鎌村好孝（徳島県保健福祉部）、白川光雄（海陽町穴喰診療所、第 14 回支部大会長：2014 年）、  
山口治隆（田岡病院、第 18 回支部大会長：2018 年）

そのお礼も兼ねて、諸先生との交流や、私自身のプライマリ・ケアの歩みを紹介する。



図 1：本田が講演

私は、1958 年に徳島県的美波町で生まれた（[図 1](#)）。中学までは町内、高校は阿南市、そして大学は徳島大学へ進んだ。高校野球がブームの頃で、勧誘され準硬式野球部に入部。座長の労を取っていただいた板東先生（2 塁手）は、2 年先輩になる（[図 2](#)）。往時は、練習中の水分摂取が制限されており、2 年の夏合宿で熱中症となり退部した。HIV 感染症診療のトップランナーの岡慎一先生（国立国際医療研究センター）も準硬の 1 年先輩で、クラブ活動で医学や野球だけでなく、人生哲学まで教えてもらった。

3 年からは外国語研究会（Foreign Language Society、FLS）に入部し、主に英会話を鍛錬した。春や夏のキャンプで、四国内の大学間や西日本の医歯薬学部の学生らと交流を持った。白川光雄先生は、FLS の 6 年後輩となる。他の大学は、English Speaking Society（ESS）と称するサークルが多い。内分泌内科学領域の伊藤裕（慶応大学）や向山正志（熊本大学）の両教授は私と同学年。京都大学 ESS の 0B で、一緒に英語を学んだ知己になる。

徳島大学卒業後は、総合的な診療を展開していた旧第一内科（血液・内分泌代謝内科学分野、齋藤史郎元学長が主宰）に入局。大学病院での研修の他、旧 高松市民病院（現 高松市立みんなの病院）や徳島県内の病院・診療所に勤務した。上述の板東（第二研究室）・白川（第三研究室）の両先生は同門になる。基礎研究も行い、1988

～91 年、東京・築地の国立がんセンター（現 国立がん研究センター）のリサーチレジデントとして学んだ。2022 年 9 月 29 日～10 月 1 日に開催された第 81 回 日本癌学会学術総会の学術会長を務めた村上善則教授（東京大学医科学研究所）も同学年で、がんセンターのラボでご一



図 2：ウェブを併用し、座長は板東先生

緒したのが懐かしい。

その後、内科教室や臨床分子栄養学（大塚）講座に通いながら、阿南市の診療所に勤務した。2005年より郷里の旧由岐病院に勤務。2016年からは、将来に起こりうる津波災害を考え高台に移転した美波病院に勤務している。

地域の病院に勤務後も学術的な活動と思い、本学会に入会。2005年から発刊されている四国支部論文集に連続で寄稿してきた。第8回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が高松市で開催された（2017年5月13日（土）・14日（日）、大会長：板東浩先生）。テーマは、「総合診療が拓く未来～地域に新たな架け橋を～」。準備会から、積極的に参加した。

1) 実行委員会企画の「南海トラフ地震に、プライマリ・ケアができること（メインシンポジウム1（5月13日）」を提言した。座長は、木村年秀・杉山圭三の両先生。「徳島県南部のフロントラインの病院より」と題して、高台の免震建物の美波病院が完成したことを発表した。

2) 教育講演4は、馬原文彦先生（阿南市、有床診療所）による「日本紅斑熱、Update～ダニ媒介感染症の初期対応～」。

医院の近くに、馬原アカリ医学研究所を併設。抗体検査や学生指導をしていただいた藤田博己前所長が、2022年4月に亡くなられた。ご冥福をと思う。

3) 教育講演8は、「日本における循環器疾患のエビデンス（小川久雄先生、国立循環器病研究センター）」。

その後私も参加し、心房細動・心筋梗塞合併症例の抗凝固剤は、DOAC 1剤でよいというエビデンスを構築した（アファリア研究、N. Engl. J. Med.、2019）。現在は、熊本大学の学長になられている。

また2007年には、徳島大学に総合診療医学分野（当初は、地域医療学。谷憲治教授は1年先輩）が開設され、2017年には同大学病院に総合診療部が設置されている。同講座と交流があり、学生の実習を県立海部病院や宍喰診療所などとともに受け入れ、臨床教授となった。同教室の山口治隆・大倉佳宏の両先生とも、研究会などで親しくなった。特に、医学部5年時に旧由岐病院にて実習を受けた河南真吾先生は、同講座のスタッフとなり今後の活躍を期待している。

また、美波病院は国保診療施設（国保直診）であり、その第58回 全国学会を徳島で行った（2018年）。準備・運営に尽力した白川・藤原真治、中園雅彦先生らと懇意になっている。平成7（1995）年11月23日に開催された第19回 徳島県国保診療施設研究会の研究発表では、1) 三村誠二先生（木屋平診療所）：僻地における地域健康教育の実践と問題点について、2) 本田壮一（海南病院）：高尿酸血症とプリン体生合成経路の異常と、一緒に発表したことを思い出す。

白石吉彦先生（隠岐島前病院）は、徳島県国保学会（2014年）にて、特別講演をしていただいた。他に、1) 病院長養成塾、2) 離島医療、3) 超音波（POCUS）などで交流があり、懇意にしている。今回は、グッドデザイン賞受賞おめでとうございます。

徳島県は、「vs 東京」をスローガンに掲げてる。また、“Primary” ということばには、1) 「最初の」と、2) 「主要な」の意味がある。プライマリ・ケアは、患者さんに近く、包括して診るかかりつけ医。そして、今後、高齢化が進む首都圏に必要な医学・医療と考える。

本学会は、大学が異なっても、都会や県外から戻って来た諸先生も歓迎している。今、この四国で学んでいるプライマリ・ケアから、将来の日本の医療に役立つ内容（1、災害医療（**図3**）、2、地域包括ケア、3、多職



図3：シンポジストとの交流（2019.10）

種連携などを議論したい(22回PC四国:四国で学び、日本の未来に寄りそうプライマリ・ケア)。

さて、年2回夏と冬に開催される徳島医学会は、2023年2月には266回を数える伝統のある学術集会である。臨床・基礎医学に加え、社会医学や栄養学、薬学、看護学、リハビリテーション医学などの発表や、発表者も医師だけでなく多職種(メディカル・スタッフ)や研究者、学生と多彩である。地域医療においても学術活動をと考え、私どもは2005年から約30演題を発表した(省略)。勤務の旧那賀川診療所や美波病院(旧由岐病院を含む)での、連携と教育をスローガンに行った地域医療の歩みを紹介している。抄録が掲載されている四国医学雑誌は、徳島大学医学部のホームページに公開されている<sup>2)</sup>。

結びになるが、プライマリ・ケアや地域医療では、「連携」と「教育」が重要である(図4)。研究心(リサーチマインド・知的好奇心)を持ち続け、学会発表や論文執筆はモチベーションを維持し、持続可能な医療につながる。災害を考え、一期一会の信念で、出会いやふれあいを大事にしたい。さらに、日本の未来も考えたい。自分自身の健康にも留意し、さらに地域住民の健康寿命の延伸に尽力したいと思う。



図4：学会終了後、みんな一緒に

#### 【参考】

- 1) 本田壮一：第22回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会を開催して. 徳島県医師会報, p58・59, No 619, 2022. 12.
- 2) 四国医学雑誌 (SHIKOKU ACTA MEDICA) アーカイブ  
⇒<https://www.tokushima-u.ac.jp/med/research/achievement/22935.html>

## ★2 「第22回支部地方会は成功裡に(第4報)」

大会長・美波町国民健康保険美波病院(徳島) 本田 壮一

晩秋の2022年11月19日(土曜)、20日(日曜)の二日間、「第22回日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部地方会」と「第29回四国地域医学研究会」の合同学術集会を、徳島県医師会館(徳島市。徳島大学蔵本キャンパスから変更)とZoomで開催した。テーマは、「四国で学び、日本の未来に寄りそうプライマリ・ケア(PC)」とし、私の挨拶で開幕した。会場37名、オンライン72名、両方ともが7名、合計116名が参加し盛会となった。欠席の会員のために、このnewsletterに再録する。

### I. 一般演題(解説:本田壮一)

まず、学会の華といえる「一般演題」を紹介する(表)。2日間で18題の一般演題の応募があった。徳島県内だけでなく、香川・高知が3題ずつ、愛媛から7題、岡山からも1題の発表があった。初日にまず9題。当院で地域医療を学んだ臨床研修医の伊澤勝哉先生(徳島大学病院)が「急性冠症候群を巡るプライマリ・ケア」と題して発表した。やはり当院で研修を受けた共同演者の吉川紘平研修医(同院)も、研修先の高松市立みんなの病院から聴講に来てくれた。また、看護師による演題が1題あった。

表：一般演題の一覧（発表順、敬称略）

No	発表者	所属	タイトル	備考
1	近藤啓介	HITO 病院	腹膜垂炎の1例	
2	中尾裕貴	高知大学	神経線維腫症関連びまん性肺疾患 (Neurofibromatosis-associated diffuse lung disease: NF-DLD) と考えられた1例	
3	鈴木耕一郎	徳島健生病院	尿道カテーテル抜去困難で尿路感染症を繰り返した1例	
4	伊澤勝哉	徳島大学	急性冠症候群を巡るプライマリ・ケア	研修医
5	國永直樹	倉敷中央病院	AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォームを通じた連携について	
6	高橋 良輔	徳島県立海部病院	筋症状と横紋筋融解症を契機に橋本病の診断に至った1例	
7	藤田周一郎	富士クリニック	漢方薬（乙字湯）鍼灸治療のアプローチにより奏功した不全型ベーチェット病の難治性口内炎に対する東洋医学的考察の1例	
8	馬越隆光	高松平和病院	マルチモビディティのある社会的困難者への医療介入	
9	南千代	昌光寺	住職看護師によるプライマリ・ケア	看護師
10	中津守人	三豊総合病院	コロナ禍における当院の在宅医療・介護の現状と課題	
11	池田達也	高知医療センター	高 ALP 血症の原因精査で PSA 陰性前立腺癌と判明した1例	
12	水本潤希	愛媛生協病院	前皮神経絞扼症候群と誤診した皮疹のない帯状疱疹（症例報告）	
13	吉見和華	愛媛大学	愛媛県内の医師の偏在と解決策	学生
14	山田真由	愛媛大学	都市部の地域医療における医師不足の検討	学生
15	越智綾乃	愛媛大学	愛南町の妊婦さんにとって安全で快適な産科医療体制の確立	学生
16	大木元穂香	愛媛大学	喫煙歴有無による年代別予後の検討	学生
17	菊池明日香	愛媛大学	問診で不随意運動が疑われ、身体診察で姿勢時振戦を呈したバセドウ病合併もやもや病の1例	
18	江田雅志	高知県立あき総合病院	4回目の菌血症で診断がついた化膿性脊椎炎の一例	

座長の4名（リモートも含む）にもお世話になり、活発なご討論ありがとうございました。

## II. 祝辞・ごあいさつ（本田）

急な変更で会館を使用させていただいた徳島県医師会長の斎藤義郎先生（[図 2.1](#)）から、日本医師会が推進している「かかりつけ医」の中心としてプライマリ・ケア医の役割を期待すると、力強い応援のご挨拶をいただいた。阿波谷敏英四国支部長や、日本プライマリ・ケア連合学会理事長の草場鉄周先生（北海道家庭医療学センター）のご挨拶もあった。3名共、会場に来られた。



図 2.3：斎藤先生・草場先生両先生を関係者で囲んで

草場先生（[図 2.2](#)）は、地方会を支援し大事にしていく。そして、ダイバーシティとして、学会での女性比率を増やすこと、医師以外のコミディカルの参画を進めていることを紹介した。

学会を身近に感じ、遠方の北海道からの出席に感謝している。学会開始直前の写真を示す。（[図 2.3](#)）



図 2.1：徳島県医師会 斎藤義郎会長



図 2.2：草場鉄舟理事長

### III. 大会長講演 (本田) : 前述

### IV. シンポジウム (藤原、山口)

災害についてのシンポジウムを行った (頻発する災害とプライマリ・ケア～地震・津波、COVID-19、そして)。4名の徳島県のPC学会員が登壇した。座長は、藤原・山口の両名が務めた。

1) 上山裕二先生:「南海トラフ巨大地震に備えた地域における救急シミュレーションコースの開催」(図 4.1)

2) 林秀樹先生:「南海トラフ災害に対する AMDA などの取り組み」

(図 4.2)

3) 中園雅彦先生:「南海トラフ地震に備えた取り組みはランサムウェアによる電子カルテ障害にも有効であった」(図 4.3)

4) COVID-19 支援中の北海道から駆けつけていただいた三村誠二先生:「徳島県における新型コロナウイルス感染症対応」(図 4.4)

それぞれ自己紹介とともに、Take home message を発表の最後のスライドとしていただき、理解が進んだ。勤務の美波病院は津波災害の訓練や、COVID-19 対応、電子カルテの入れ替えをおこなっている最中で、それぞれの講演はとても有益であった。

備えあれば少し憂いが少ない (上山先生) や、AMDA との連携 (林先生)、電子カルテ災害の実際 (中園先生) は有益で、災害では情報収集や調整が重要 (三村先生) の言葉が心にしみた (図 4.5)。指定発言として、鎌村好孝先生より、コメントをいただいた (図 4.6)。プライマリ・ケアは、災害医療で重要であることを皆の共通認識にできたと思う。

図 4.1 : 上山裕二先生



図 4.2 : 林秀樹先生



図 4.3 : 中園雅彦先生



図 4.4 : 三村誠二先生



図 5.1 : 中津守人先生

### V. 四国ブロック支部の総会 (本田)

阿波谷支部長が議長として開催された。「もっともっと専攻医を増やしたい」のが四国支部の課題である。会計を大原昌樹先生 (綾川町国民健康保険陶病院) が報告され、承認された。次回は高松市で開催、中津守人先生 (三豊総合病院) が挨拶された (図 5.1)。

### VI. Zoom を用いた交流会 (オンライン意見交換会、河南)

2年ほど、交流会がなく寂しく思っていた。

Zoom を用い交流会を行った。各自の自己紹介を行い、プライマリ・ケアでの悩みを共有した (図 6.1)。

鹿児島島の与論島から4月に、徳島に戻られた古川誠二先生 (徳島大学旧第一内科の先輩、第3回赤ひげ大賞、清和会協立病院)も、参加しご意見をいただいた。出席の総合診療の専攻医の「中途半端な医者」という思いの悩みを聞いたときに当然の思いだと同感と。現状がそんな思いを抱かせる医療体制になっていると。今よりもいい企画だと思う。このように現場の問題を率直に忌憚なく話し合える場があることはとても大切なこと。そこから新しい問題がみえてきて、話し合うことで新たな道が開けると思うと。

【参考】古川誠二: 離島医療から見た地域医療の形, 日本プライマリ・ケア連合学会四国支部論文集、No.16, 2023年 (印刷中)



図 4.5 : 総合討論



図 4.6 : 鎌村好孝先生



図 6.1 : Zoom を用いた交流会

また、病床から参加の杉山圭三先生（愛媛県立中央病院）の活発なご発言、ありがとうございました。早期の快癒を祈る（図 6.2）。

## VII. ポートフォリオ発表会（大倉）

2 日目の早朝に行われた。発表は、近藤啓介先生（HITO 病院、徳島大学 AWA 広域総合診療専門研修プログラム）の 1 名であった。地域志向のプライマリ・ケアの発表領域として提示された。原穂高先生（愛媛生協病院）のご司会の下、2 時間と長時間だが、活発な議論がなされた。ポートフォリオの実際の作成にも役立つ内容であった（図 7.1）。



図 6.2：企画の河南先生を囲んで

## VIII. 教育講演（第 2 日）（谷憲治、本田）



図 8.1：  
白石吉彦先生

教育講演は、懇意の白石吉彦先生（隠岐島前病院参与、島根大学医学部附属病院総合診療医センター長）が演者（図 8.1）。「徳島から隠岐へ、そして総合診療医育成の道へ」と題してご講演。



図 7.1：ポートフォリオ発表会

Prezi(プレジ)：zoom して表現するオンライン・プレゼンツールを用いられた（図 8.2）。

徳島県の日野谷診療所（那賀町）で濱田邦美所長とともに地域包括ケアを実践し、1998 年に隠岐にわたった。25 年にわたり離島医療に取り組み、総合診療医としてのやりがいやノウハウ、そして学生・研修医教育を学んだ。隠岐では、医師の人数に余裕があるため、産休育休も自由に取得でき、短期研修も可能で、他院の産休代診派遣なども行っている。隠岐島前病院は 50 床のへき地自治体病院だが、診療内容、修得可能な技術や知識を発信し、全国から学生や研修医、医師の見学を多く受け入れを行い、結果として総合診療医が集う医療機関となっている。



図 8.2：オンライン・プレゼンツール

2021 年に厚生労働省の「総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業」をうけてしまね総合診療センター（島根大学医学部附属病院総合診療医センター）が設立された。島根県下の 13 名のコアメンバーが、センターの運営に当たっている。

1) 高校生のオンライン体験実習や、2) 4 年生で行われる 37 コマの症候学の授業を担当。3) 5 年生では全員に対して 4 週間の地域実習を行っている。

このような活動を、島根県下の地域の総合診療医が地域にいながらにして参画できるよう、ICT を駆使しバーチャルオフィスを構築した。出身大学や所属医療機関の壁を越えて、自治医大卒業生、家庭医、セカンドキャリアとしての総合診療を選んでいる地域の総合診療医が一致団結して、島根大学での総合診療医養成のプロジェクトに取り組んでいるという。

医療の枠を超えて、一般社会の啓発活動として、島根県からのソーシャル・デザインの総合診療医養成で、2022 年 Good Design 賞にチャレンジした。5,715 のエントリーのなかから 20 に選ばれる金賞を受賞することができたとのこと。

徳島県医師会の地域医療支援委員会(本田が副委員長)と共催で開催したが、有益で刺激的な講演であった。是非、全国へ展開してほしいものと思った。

【参考】白石吉彦: 徳島から隠岐へ、そして総合診療医育成の道へ, 日本プライマリ・ケア連合学会四国支部論文集、No.16, 2023年(印刷中)

**IX. 財務、結びに(大倉、本田)**

閉会式には、今回の学会でお世話になった地域医療振興協会の新鞍誠先生(図9.1)と、大倉先生(図9.2)が挨拶。同協会西日本事務局(京都市)の増居志津子、吉田渉の両氏に感謝したい(図9.3)。

中津先生が登壇され、2023年11月に高松市で、23回四国PCを開催すると宣言された。アルコールや飲食を伴う懇親会はできず、何かおもてなしを考えた。休憩時間には、「VS東京」のDVDを流した。2日目の朝には、早朝のラジオ体操(徳島中央公園)、その後城山に登るファンウォークを企画した。だが、寒い朝で参加者はいなかった。また、学会終了後は旧徳島城表御殿に佐野良仁先生(土佐山田市)を案内し、ボランティアガイドの詳しい説明で理解を深めた。

四国4県での持ち回り開催なので、ちょうどFIFAワールドカップ開催の年に、徳島県支部が担当になる。2026年のFIFAワールドカップは、アメリカとカナダ、メキシコの共同開催。同年の第26回四国ブロック支部大会も徳島県内で実り多く開催されることを祈念して、日々の地域医療に精進したい。来年も、元気に再会できることを期待して筆を置く。



図 9.1 : 新鞍誠先生



図 9.2 : 大倉佳宏先生



図 9.3 : 阿波谷敏英先生、および増居・吉田各氏

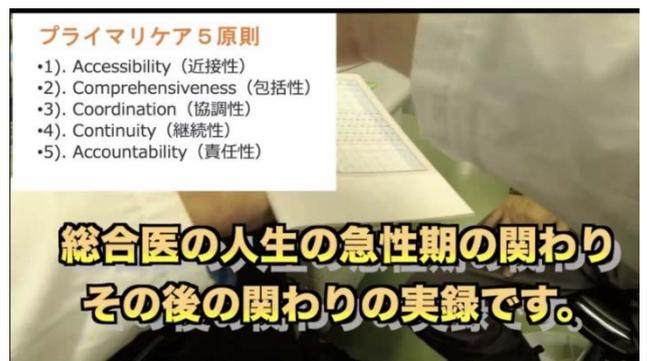
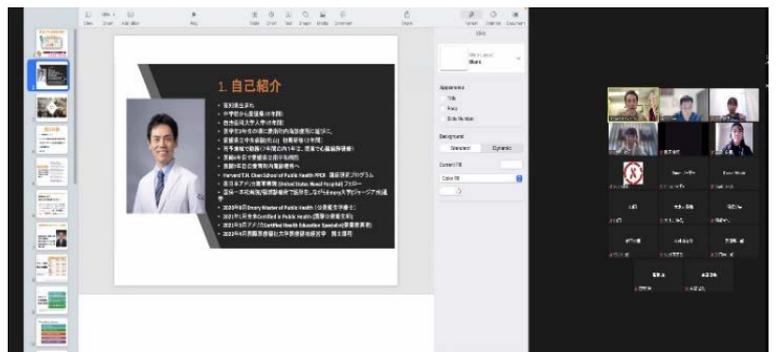
**★3 地域医療ワークショップ**

**愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座(愛媛) 川本 龍一**

愛南町国保一本松病院副院長: 嶋本 純也先生

(2022年11月25日12:00~12:35: Web講演)

地域枠1年生を対象として、自治医科大学を卒業され愛南町で活躍されている本学会会員でもある嶋本純也先生より「総合医について」のお話を、さらには、心筋梗塞患者の対応に関する実体験のビデオを元にその場での対応をわかりやすく説明していただきました。救急搬送の一部始終が患者さんの同意の下記録され、臨場感あふれるお話でした。予防から治療、リハビリテーションまで住民の身近な存在として活動することの重要性を強調されました。患者さんを外来で診るときの視診、それは呼び入れて診察室に入るときのしぐさ、服装、履物、顔色など多くの情報があり、それらが診断の参考にあることも話されました。学生実習は年中受け入れており、いつでも歓迎とのことでした。



★4 愛南町の医療に触れる会

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

(2022年11月26日 13:30~15:00: Web講演)

愛媛県愛南町での地域医療をもりたてるために愛南町に関わりある多くの多職種が参加して毎年開催されている会です。日本プライマリ・ケア学会員も多くが参加され、現地で活躍されている愛媛



県立  
南宇  
和病

院の村上晃司先生や三瀬順一先生、一本松病院の嶋本純也先生も参加者です。いずれの先生も現地にある地域医療学講座のサテライトセンターにて学生教育に熱心に取り組んでいただいています。現地の先生や地域住民の皆さんを巻き込んだ実習を組んでいただき、学生実習のポートフォリオからは、しっかりとした学びがなされています。また、今年も研究科配属1年生の越智 綾乃さんが「愛南町の妊婦さんにとって安全で快適な産科医療体制の確立」について、現地の保健師さんや住民の皆さんにもお世話になりレポートをまとめられました。同内容は、日本プライマリ・ケア学会地方会で発表され高い評価を受けました。

今年も動画視聴+オンライン(双方向型)交流会を開催します

第11回 愛南町の医療に触れる会

参加対象：地域医療に関心のある学生及び教員

参加費 無料 定員 先着100人

平成24年度から始まった愛南町の医療に触れる会は、今年で11回目をむかえます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Webでの開催を企画しました。Webではありますが、愛南町の医療に触れ、愛南町における地域医療の現状について学んでください。新型コロナウイルスが終息した後は、ぜひ愛南町の豊かな自然に触れ、美味しい食べ物を味わいにお越しください。

動画視聴	オンライン交流会
11月1日(火)~11月26日(土)	11月26日(土) 13:30~
YouTubeで限定配信	愛南町の魅力! ~医療だけでなく海も山も人も~
<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回~第10回のふりかえり</li> <li>愛南町で活躍中の医師より</li> <li>南宇和郡医師会からのメッセージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛南町から発信</li> <li>意見交換</li> </ul>
いろいろい、あいなん動画 愛南町の紹介動画	視聴後にレポートを提出していただいた方に愛南町の特産品をプレゼント!

申込みについて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>右記のQRコードから申し込んでください。</li> <li>YouTubeで限定配信。申し込みされた方に事前にアドレスをお送りします。</li> <li>申込期間 10月20日(木)~11月11日(金)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必須事項                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①氏名(ふりがな) ②郵便番号・住所</li> <li>③電話番号 ④E-mailアドレス</li> <li>⑤所属・学部・学科</li> </ul> </li> <li>● 申込み・問い合わせ先                             <ul style="list-style-type: none"> <li>愛南町役場 保健福祉課 (担当: 中川 橋本)</li> <li>TEL 0895-72-1212 (平日8:30~17:15)</li> <li>F 798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲2420</li> </ul> </li> </ul>

● 共催 愛媛県愛南町 南宇和郡医師会 愛媛大学医学部

★5 PC教育の一環として加藤正隆先生による学生向けの講義

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

(2022年12月9日、15:20~16:20: Web録画)

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義していただきました。

お忙しい中、PPTの録画を用意していただき、最初の画面ではいつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿が映し出され、先生の情熱が伝わる講義でした。先生は現在愛媛県医師会副会長をなされており、日本医学学会での禁煙に関する事業でも活躍されています。

## ★6 秋のポートフォリオ発表会を開催

愛媛生協病院 原 穂高

秋のポートフォリオ発表会を開催しました。

2022年11月20日(日)、四国ブロック支部地方会2日目の朝、ポートフォリオ発表会を開催しました。発表はHITO病院で研修中の近藤啓介先生(徳島大学AWA広域総合診療専門研修プログラム)でした。

低体温症で入院した患者さんの症例で、甲状腺機能低下症を診断、住所が四国中央市の新宮で自宅の暖房器具が炬燵のみという環境要因もありました。一度は退院したものの再び低体温症で入院することになり、その後のアプローチについて総合診療医/家庭医らしい取り組みの発表でした。演者がひとりだったこともあり、質疑応答にじっくり時間を掛けることができました。

提示された症例を基に様々な質問・突っ込みと回答、アドバイスが豊富で、ポートフォリオを練り上げていく経験を参加者が共有できたのではないのでしょうか。

個人的には冷暖房を嫌う高齢者(認知症)の室温管理のため、エアコンのリモコンを持ち去ってしまう(!)という方策に驚きを禁じ得ませんでした。

春のポートフォリオ発表会は、新専攻医オリエンテーションの日に開催します。専攻医のみなさま、応募をお待ちしています。どうかよろしく申し上げます。

